

# 平成28年度地域相談支援フォーラムin沖縄

## 「がんの告知を取り巻く支援を考える」 熊本県

平成29年2月11日

### 熊本県概要（H28.4現在）

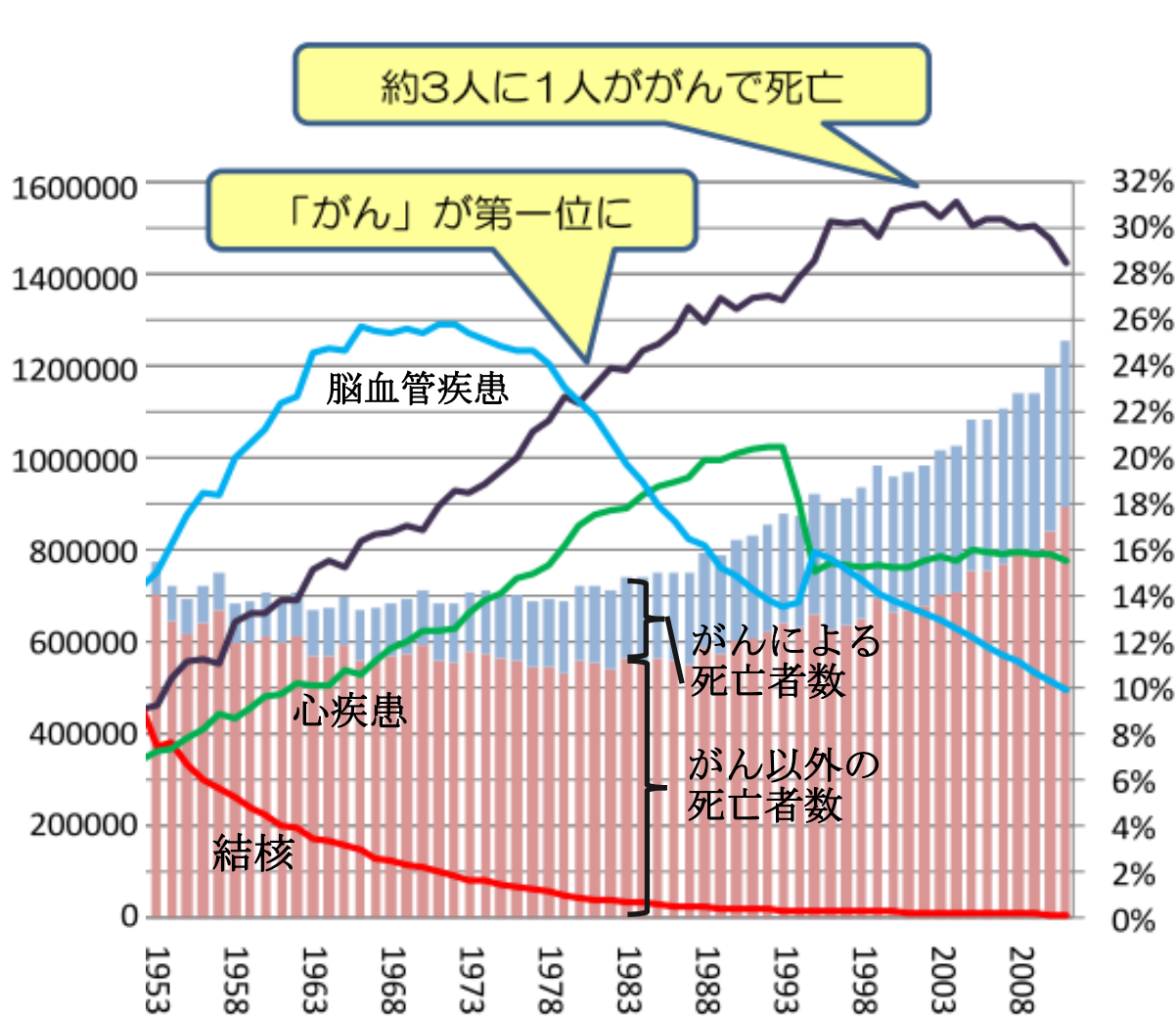
人口 178.0万人 面積 7,404km<sup>2</sup>

病院数 214 診療所数 1,465

新規がん罹患患者数12,054（H25がん登録統計）

がん死亡者数5,481（H27人口動態調査）

# がんによる死亡者の推移



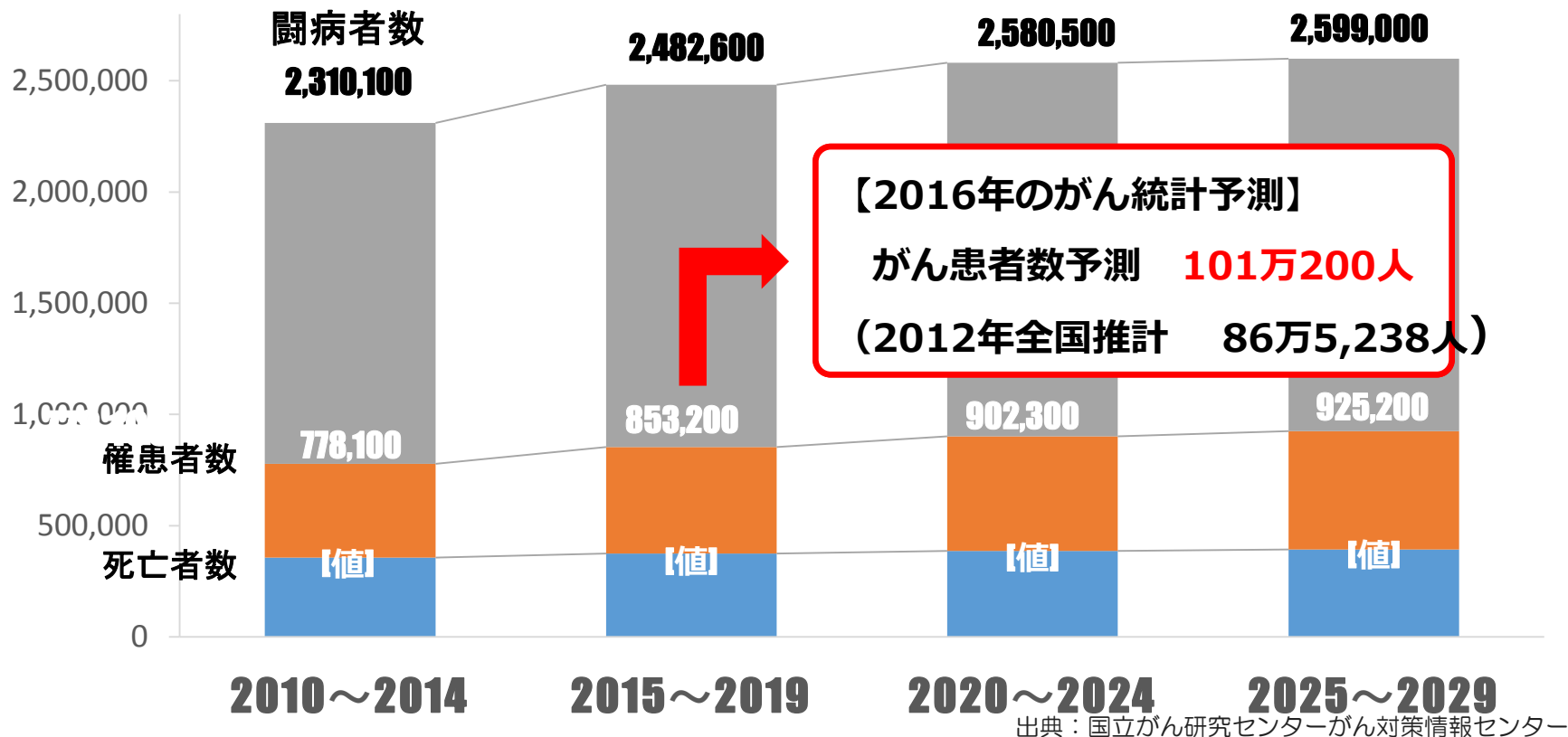
2015年(H27年)  
 全国1,290,444人  
 がん 370,346人  
 (28.7%)

熊本 20,262人  
 がん 5,481人  
 (26.5%)

- 1位 肺がん 1,106人
- 2位 大腸がん 661人
- 3位 胃がん 528人
- 4位 肝がん 508人
- 5位 膵臓がん 469人
- 6位 胆嚢がん 337人

人口動態統計

# がんの罹患者数、闘病者数の推計



【熊本県のがん罹患者数】 **12,054件** 出典：熊本県のがん登録（2013）



男性 **6,887件**

- ① 前立腺、② 肺、③ 胃、  
④ 大腸、⑤ 肝臓



女性 **5,167件**

- ① 乳房、② 大腸、③ 肺、  
④ 胃 ⑤ 子宮

# 熊本県のがん診療連携拠点病院の状況

「がん診療連携拠点病院」は、専門的ながん医療の提供、がん診療の連携協力体制の整備、患者への相談支援や情報提供などを担っている。

## 都道府県がん診療連携拠点病院

- ①熊本大学医学部附属病院 1か所

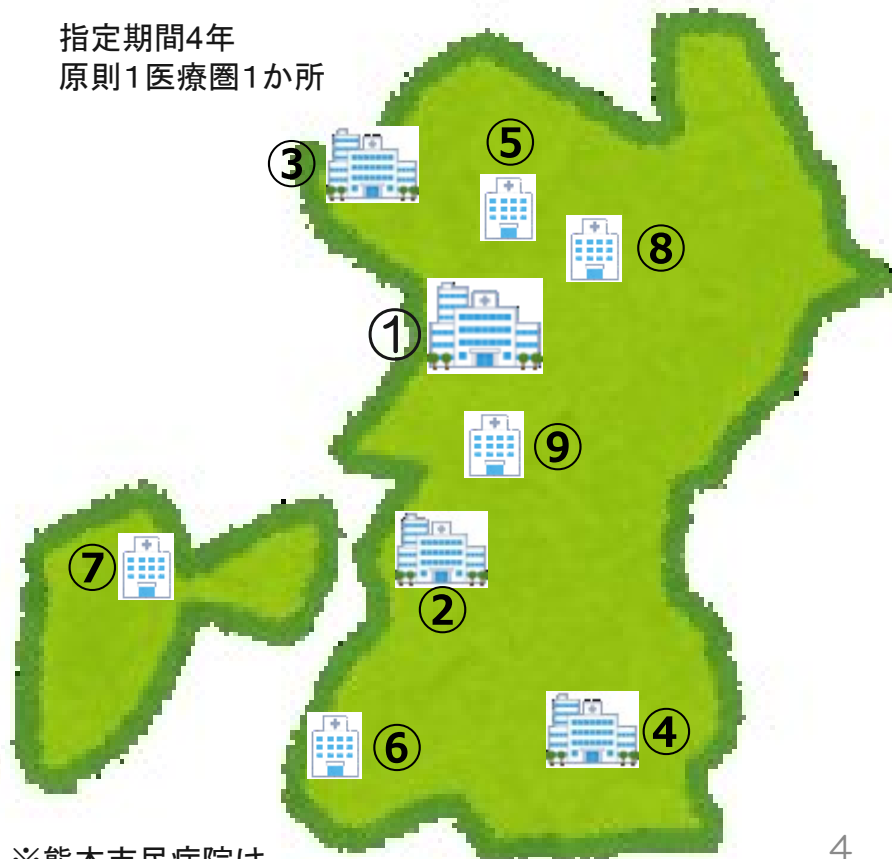
## 地域がん診療連携拠点病院

- ①国立熊本医療センター 6か所  
①熊本赤十字病院、①済生会熊本病院  
②熊本労災病院、③荒尾市民病院、  
④人吉医療センター、

## 熊本県指定がん診療連携拠点病院

- ①熊本中央病院、 11か所  
①熊本地域医療センター、  
①くまもと森都総合病院、  
①大腸肛門病センター高野病院、  
②熊本総合病院、⑤熊本再春荘病院、  
⑥水俣市立総合医療センター、  
⑦天草地域医療センター、  
⑦天草中央総合病院、  
⑧山鹿市民医療センター、⑨熊本南病院

指定期間4年  
原則1医療圏1か所



※熊本市民病院は  
震災被害で平成29年1月6日付で辞退 平成29年1月現在

# 平成28年度熊本県の取り組み 取り組み1～リレーフォーライフ参加～

平成28年10月15日(土)～16日(日)

4月の地震により、開催延期となったが、  
10月実施。

熊本県がん専門相談員ワーキンググループでは、各情報冊子の提供、がん相談を行った。

<RFLの際のがん相談件数>5件

## 内容

- ・震災時のがん情報を得る方法が分からなかったこと。
- ・被災し、家の片づけなども意欲がわかなかった。
- ・震災に遭い、他病院で治療することが不安だったこと。
- ・症状に関する相談
- ・食事内容
- ・認知面の低下もあり、対応法が分からない。



## 取り組み2 熊本県版がん情報冊子

患者さんが、がんを理解し将来の展望をもって治療に臨んでいただくための一助となるような、療養上の様々な情報をまとめた『熊本県版がん情報冊子』を作成（2,000部）。

熊本県がん相談支援センターのホームページに掲載中

<http://www2.kuh.kumamoto-u.ac.jp/Canconsultation/>

平成28年3月発刊

熊本県がん診療連携協議会  
がん相談員ワーキンググループ編

※第2版 平成29年3月予定



# 取り組み3 ハローワーク出張相談

長期療養者就職支援事業開始

毎月第二・第四水曜日

10時30分～15時30分まで

予約制：一人1時間

平成28年12月14日(水曜日)

熊本大学医学部附属病院がん相談支援センター相談室にて第一回目ハローワーク就職支援ナビゲーターによる出張相談を実施した。



# 取り組み4 平成28年度熊本県がん相談員研修会開催

平成29年1月14日(土)

平成27年度に引き続き、がん患者の就労支援についての研修を企画。

目的:がん患者の就労支援への取り組みを積極的に行うために必要な知識や相談支援の方法を学び、  
医療と労働関係の専門職種が研修会を通して顔の見える連携・仲間づくりを行う。

対象:二次医療圏を含むがん相談に携わる医療者・社会保険労務士や労働局職員・産業保健総合支援センター職員

参加人数:医療者・相談員 59名 労働関係職員 19名

初めて労働関係職員を含めた研修会を実施した。

共通講義

熊本県健康づくり推進課藤本さん「がん患者就労支援対策の動向について」

国立病院機構熊本医療センター境医師 産業医の立場から「患者・家族の生活を支える」  
～職場と医療の理想的連携とは～

医療者・相談員向け講義

労働局より「ハローワークと医療機関等との連携による就職支援について」

社会保険労務士「社労士の役割・就労支援に関する制度について」

産業カウンセラー「産業カウンセラーとしての関わり」

労働関係職員向け講義

熊本赤十字病院吉田医師より「がんの一般知識～がん患者と就労支援について～」

熊本大学病院がん相談支援センター安達CNSより「がん相談支援センターの役割について」

午後より医療者・相談員と労働職員ミックスでグループワーク(ケーススタディ)



# 取り組み4 平成28年度熊本県がん相談員研修会 平成29年1月14日(土)



がんと診断された時からの就労支援

# がんの告知事例

～熊本大学医学部附属病院がん相談支援センターの取り組み～

50代女性（A氏）口腔がん初期

## [経過]

平成28年夏近医歯科から舌の病変について当院へ紹介。生検の結果舌がんの診断。がん看護専門看護師がICに同席し、本人・ご主人が告知をつけた。本人は表情がこわばり、ご主人も終始硬い表情であった。その際、仕事や医療費についての心配もあり、がん相談支援センターへ紹介となった。

## [家族・環境]

夫・子供・母との4人暮らし。4人暮らしで生活費がかなりかかる。後少しでも節約しようと生命保

外来で医師ががんの告知をするとき、**がん相談支援センター職員が同席。**  
(全員の患者の告知には同席できないが)

## 医師から

- ・痛みや不快な症状があれば積極的に症状をとる治療を行うこと。
- ・本人や家族にからだやこころのつらさ、社会的・経済的な問題などがあれば、がん看護専門看護師やがん相談支援センターの相談員がサポートすることを説明。

## がん看護専門看護師が

- ・社会的・経済的な心配などがある患者・家族をがん相談支援センターへつなぐ。

# がんの告知事例

## がん相談支援センターでの状況

### A氏の心配

- ・病気や治療後の後遺症が心配。
- ・医療費はいつまで免除が効くのか。
- ・地震で被災し、みなし住宅に移り生活が一変した
- ・仕事が販売やアドバイザーをしており、話すのが仕事。復帰できるのか…。
- ・環境が変わったことによる母への心配。
- ・体重が減ったのはがんのせい…？

### 夫の心配

- ・妻の命はどうなるのか、病状や死の恐怖。
- ・地震により受診が遅れたのではという後悔やつらさ
- ・地震で家を失い、生活が不安。
- ・被災地の進まない復興への不安。

本人・夫同時に面談を行う予定であったが、本人は病気のこと、医療費や生活・仕事を中心とした不安を相談員に、夫はがん看護専門看護師に妻の病気や死への不安、地震による影響などを相談した。

# がんの告知事例

## A氏と家族への支援

- ・がん看護専門看護師が本人や夫のつらさを受け止め、継続支援。
- ・本人へ医療費免除の延長の情報提供や今後の暮らしの確認。
- ・仕事の休み方、休業補償について。
- ・検査や治療の見通しについて医師から説明。
- ・主治医や外来看護師、入院担当看護師との情報共有や連携。
- ・いつでも相談できることを伝えた。

## 入院や手術の経過は良好

### A氏の反応

(退院前)

- ・不安なこともたくさんあったけれど、病気になったから病気を抱えた人の気持ちとか考えることが出来た。
- ・夫の不安を看護師さんに聞いてもらって良かった。自分も安心した。
- ・相談支援センターによらずに帰ったら、二人で落ち込んでいたと思う。
- ・友人からはしゃべりは変わらないと言われてほっとした。

(退院後一か月)

## がん告知時専門看護師や相談員が同席することで

- ・告知時のつらさや混乱を受け止め、不安の軽減を図ることができる。
- ・情報の整理を助け、意思決定につながる。
- ・院内での連携を通し、患者・家族の病気への理解を深める。
- ・初期から関わり、継続的な支援を保証することで様々な局面で生じる問題に患者・家族も安心して相談できる。

最後になりましたが・・・



熊本地震の際は、皆さまの温かいご支援や励ましのメッセージをいただき、ありがとうございました。



# ご清聴ありがとうございました。

がんばるけん！

くまもとけん！



熊本県がん専門相談員ワーキンググループ

熊本赤十字病院 増田 真由美

熊本大学病院 上井 真理

熊本県健康づくり推進課 藤本 真之介